個が生きる社会科の授業

大脊戸　若　光　　吉　浦　公　子
富　村　　誠　　上之園　　強

1．個が生きる社会科授業

(1)　これまでの研究経過

これまでの三年間，本校の研究主題である「自ら学ぶ意欲・態度を育成する指導と評価」を受けて，児童が「学習のめあて」を育て，追求し，達成する社会科授業のあり方を求めてきた。社会科の授業は，そのねらいに照らして意義のあるものでなければならない。しかし，同時に，児童一人ひとりが受身としてではなく，意欲的に取り組める学習であることが重要である。そのためには，「学習のめあて」を喚起し，持続させていくことが必要であると考える。社会的事象に対する驚きや疑問を自らのものとし，自分の学習のめあてとして追求し，解決していく力を児童に培っていく社会科の授業創りにあたって，具体的には，以下の点に重点をおいてすすめた。

①　魅力的で新鮮な教材を開発する

児童の学習のめあて意識を喚起し，持続させるためには，児童にとって魅力的で新鮮な教材を開発することが必要である。教材開発の視点として次の点を考え，実践してきた。

- 児童の発達段階に即し，事象の解釈にほどよい抵抗があること
- 具体的であり，意外性や驚きなどの心情のゆれを引き起こすこと
- 主体的に追求できる多様な場が設定でき，成就感を抱かせられること
- 指導のねらいの達成（児童のめあて解決）に必要な事実を含むこと

②　追求力を育てる指導方法を工夫する

学習過程においては，追求力を育てる指導方法とし次のような点を配慮した。

- 児童の思考や理解のつまずきをつかむ手だてを用意し，児童が解決の見通しを持つことが出来るようにする。
- 児童の思考を促す説明・指示・発問・資料を工夫する。
- 集める・作る・調べるなど学習活動に応じた働きかけをする。
- なんでも話し合える学習集団をつくる。

③　学習のめあてに照らした評価を取り入れる

教材開発の項でも挙げたように，学習のめあての育成を図るためには，観点別の達成目標を分析しておき，内容を明確にしておくことが必要である。観点別学習状況評価においても，その「学習のめあて」に照らしたものとなるよう工夫した。

④　各学年の児童の特性に応じた指導の重点化を行う

以上の内容・方法・評価の重点事項は，どの学年に対しても必要である。しかし，学習の主体である児童は第一学年から第六学年まで同じように学習を進めていけるわけではない。そこには言うまでもなく各学年段階の児童の特性があり，指導にあたってはその特性を踏まえておかなければならない。そこで，各学年段階の児童の特性を把握し，それに基づいた指導のあり方や重点事項を設定した。

次の表は，各学年の児童の特性と指導の重点を示したものである。

学年	学習の場における特性	指導のあり方と重点
1・2学年	• 動きまわって，見つけることを好む • 自分の関心について話すが根拠弱し • 興味・関心は持続，しかし拡散的	• 具体的・感覚的な体験と表現の楽しさ • 活動的・操作的な学習場面の設定 • 一単位時間での追求活動の繰り返し
3・4学年	• 行動力を持ち，積極的に確かめたがる • 「なぜ，どうして」しかし断片的 • 予想可能，理論性，集中的追求の芽生え	• 探索的な活動と問題把握の楽しさ • 意見対立，話し合い学習場面の設定 • 課題追求的学習過程の原型
5・6学年	• 資料で調べることを好み静的にもなる • 自分の論理に普遍性を持とうとする • 持続的に深く追求できる	• 児童個々の個人研究の学習の楽しさ • 課題追求の学習場面の設定 • 教師と児童の単元を見通した学習計画

(2) 社会科における個が生きる授業とは

これまでの研究成果として，児童のめあて追求姿勢は現在次第にできつつあるといえる。つまり，重要なのは，一人ひとりの児童がどのように考え，どのように活動し，どこまで高まったかであるといえる。そこで，これまでの研究経過を踏まえ，これまで以上に児童一人ひとりに焦点を当て，「個が生きる」社会科授業を考えていくことに今後のテーマを求めた。

「個が生きる」社会科授業づくりに取り組むにあたって，社会科における「個の重視」のとらえかたと，個と集団との関わりについて考えてみた。

① 社会科における「個の重視」とは

「個の重視」については，広義・狭義において様々なとらえかたがある。社会科において児童の「個」をとらえる上で，最も重視したいと考えているものは，児童一人ひとりの社会的事象に対する見方や考え方などの特徴である。その中で，表面に出易いものとして，児童の生活環境やこれまでの経験の違いから生まれものがある。「個が生きる」とは，その一つのあらわれを，単に強調してよしとするものではないと考えている。児童一人ひとりは，表面にあらわれていない多くの能力を持っているはずである。社会科における「個が生きる」とは，現在あらわれている環境・経験からくる一人ひとりの見方や考え方を大切にし，それを基にしながら，秘められていた（あるいは，新たに開発される）見方や考え方を引き出し，育てて行く事であると捉えている。

② 個と集団との関わり

個性を重視することは，個人指導することのみで良いとは考えていない。集団の中で，それぞれの社会的事象に対する見方や考え方を出し合い・認め合い・深め合う中で，児童が自分のよさ・特徴に気づくことができ，さらに新たなものが引き出だされ，それが育てられて行くと考える。その際，まず児童一人ひとりが自分の見方や考え方を明らかにした上で，集団との関わりをもっていくことが大切である。その意味からも，学習の個別化・個別学習についても考えていく必要はある。

集団づくりにおいては，いわゆる小集団学習等の学習形態のあり方も重要な要素である。しかし本研究では，まず学習形態よりも集団における見方・考え方の相互理解を基盤とした児童間のつながりを重視していく。

③ 個が生きる社会科授業とは

以上の個の重視，および個と集団についてのとらえかたに基づき，本校社会科が求める「個が生きる」社会科授業として，次のような授業を構想した。

> 児童がめあてを持ち，意欲的に社会的事象を追求し，集団との関わりの中でそれぞれの見方や考え方を出し合い，認め合い，深め合いながら一人ひとりの力を最大限に発揮していく授業

(3) 個が生きる社会科授業の条件

社会科授業において，「個が生きる」ためには，集団の中で一人ひとりの個性が生かされなくてはならない。そのためには，児童一人ひとりが，社会的事象に対する自分の見方や考え方を明らかにした上で，集団との関わりをもっていくことが前提となる。そこで，個が生きる社会科授業の条件として，大きく次の二点を考えた。

- 一人ひとりの児童が意欲的で確かな学習を進めていくことができる
- 集団の中で一人ひとりの見方や考え方がより生かされる

児童一人ひとりの社会的事象に対する見方や考え方が高まる授業（または単元）のプロセスとして次のようなものを考えている。

個の見方や考え方が高まるプロセス

①学習のめあてをつくる → ②一人ひとりが自分自身の見方や考え方を持つ → ③一人ひとりの見方や考え方を出し合う → ④互いに出し合った見方や考え方を認め合う → ⑤互いに出し合った見方や考え方を深め合う → ⑥学習の評価をする → ⑦新たなめあてに目を向ける

（第1年次）（第2年次）（第3年次）

本年度重点課題

「個が生きる」社会科授業創りの第1年次である本年度は，上記プロセス③（①②も含む）を重点課題として研究をすすめる。

実際の授業創りにあたっては，これまでの取り組みをもとに，さらに個及び個と集団との関わりの点から考えていく。

以下は，これまでの取り組み（今後も継続していく）と，今後の取り組み事項である。

今後も継続していく これまでの取り組み事項	今後の取り組みにおける重点事項 （個および個と集団との関わりをより重視する）
めあて意識を喚起する場の設定 めあて追求を持続，強化していく場の設定 めあて達成の喜びを味わわせられる場の設定	社会的事象に対する一人ひとりの見方や考え方を出し合う場の設定（第１年次・本年度） 社会的事象に対する一人ひとりの見方や考え方を認め合う場の設定（第２年次） 社会的事象に対する一人ひとりの見方や考え方を深め合う場の設定（第３年次）
◎授業創りの基本的姿勢 ◦　各学年の児童の特性に応じた指導の重点化を行う	◎授業創りの基本的姿勢 ◦　社会的事象に対する一人ひとりの見方や考え方を尊重した授業を創る
a 教材 ◦　魅力的で新鮮な教材を開発する	a 教材 ◦　多様なものの見方や考え方を引き出せる教材を開発する
b 学習過程 ◦　追求力を育てる指導方法を工夫する	b 学習過程 ◦　一人ひとりの経験や活動を重視する • 個の見方や考え方の明確化 ◦　一人ひとりの見方や考え方を集団の中で生かせるようにする • 見方や考え方の相互理解を基盤とし，児童間のつながりのある集団づくり • 個々の意見の交流や支え合いの場の重視
c 評価 ◦　学習のめあてに照らした評価を取り入れる	c 評価 ◦　一人ひとりの進歩を確かめ，励ますことを基本にした評価をしていく ◦　集団との関わりの中で児童の社会的事象に対する見方や考え方の深まりを評価の中に位置づける

2．実践事例　――3年「商店街と人々のくらし」――

(1) 単元の概要

① 単元について

広島市には，市民の消費生活の需要に応えて，さまざまな商店街が各地にある。しかし，それらを機能面からみると大きく二つに分けることができる。一つは身近な地域の人々と結び付いた商店である。児童の日々の生活と結び付き利用頻度の高い商店といえる。他の一つは広い地域のさまざまな人々の需要に応えた商店である。これらの性格を異にした商店のはたらきに着目し，それぞれの働きと人々の暮しとの結び付きを明らかにしていく。ここでは特に様々な人々の多様な需要に応えた本通り商店街を中心に扱い，その特徴と自分たちのくらしとの結び付きに気付かせていく。

② 指導目標

- 広島市の商店街のはたらきを，市民の利用，商店街としての販売の工夫，協力の面から理解させ，広島市の消費生活の特色に気づかせる。
- 地域社会における社会事象を具体的に観察させるとともに，地図その他の具体的資料を効果的に活用する能力を養う。

③ 指導計画（　）内は時数

ねらいと主な内容・活動	児童の意識	個と集団
1　自分の家の買物調べをし，自分の家の傾向をつかむ。（1） • 利用する店 • 買物のなかみ	• 自分の家はどこでどんなものを買っているのかな？	個別調査 個別にまとめる
2　買物調べの様子をまとめ，学級の傾向をつかむ。（1） • よく利用する店はそれぞれの家の近く • ときどき利用する店は市の中心部	• 自分の家ではよく利用する店と時おり利用する店があるな！	学級全体でまとめる
3　本通り商店街を利用しているわけを考える。（1） • 商品・商店に目を向けて • 立地に目を向けて	• 家の近くに店があるのにどうしてみんな本通り商店街を利用するのだろう？ • 珍しいものがあるからかな • 品物が多くて選べるからかな	個別に考える 出し合い深める
4　本通り商店街を利用するわけを確かめるために観察調査を行う。（3） • それぞれの予想にしたがって	• 店の様子の観察や来る人に聞いたりして確かめてみるぞ	個別に調べる
5　多くの人々が利用する本通り商店街の特徴と自分達の暮しとの結び付きについてまとめる。（2） • 多種多様な商品，商店 • 快適な商店街づくり • 交通の便がよい位置	• 調べたことをみんな出し合って確かめてみるぞ • 本通り商店街を利用しているわけが分かったぞ，近くの商店とは違う面があるぞ！	全体に出し合いふかめる 個別にまとめる

(2) 個が生きる授業創りにあたって

ここでは，本通り商店街を観察調査する視点（めあて）作りの場面を中心に，本年度の課題である「児童一人ひとりが自分の考えを持ち，自分の考えを出し合う場」の構成について述べていく。この場を構成するにあたって以下の３点を柱とした。

ア　児童一人ひとりが自分の考えを育む場を設定する
イ　素朴な疑問や自分なりの考えを引き出す場を設定する
ウ　一人ひとりが自分の考えを整理し明らかにする場を設定する

• アついて

一人ひとりが自分なりの考えを持つために，買物調べを位置づけて一人ひとりの生活経験をほりおこす。

観察・調査の視点（めあて）作りを深まりあるものにしていくためには，児童一人ひとりがその事象に対して自分なりの考えを持ち得ているほど，より確かなものとなる。そこで，一人ひとりの家の買物の様子をほりおこし（買物調べ），日頃の消費生活に対する自分なりの思いや考えを持たせておく。買物調べは，どの店で，どんな品物を買うかを１週間程度調べ，児童一人ひとりが自分の家での買物の傾向（どこでどんな物を買うか）をとらえておけるようにする。

• イについて

素朴な疑問を引き出すために，各児童の買物調べの結果を情報交換し共通点や相違点を見つけ出す。

本校の学区は市内に広がり，児童は様々な地域に住んでいる。このような特色を生かし素朴な疑問を引き出していく。

一人ひとりの児童が買物調べをまとめ，自分の家での買物の傾向をとらえたところでそれぞれの結果（特に利用する商店の位置）を互いに情報交換する場を位置づける。児童は買物調べの結果から，自分の利用する商店街は，よく利用する家の近くの商店街と，時おり利用する遠くの商店街の大きく二つの分けられることに気付くと予想されるが，この段階では，まだ，クラス全体の傾向まではつかめていない。そこで，利用する商店はどこにあるかという視点から地図に店を位置づける場を設定する。その結果から，「児童の住まいが市内に広がっているにもかかわらず，時おり利用する商店が本通りなどの市の中心部に集中しているのはなぜか」という疑問を引き出していきたい。

• ウについて

自分の考えを整理するために，書く場面を位置づける。

児童が自分の考えを持ち明確にしていくためには，既習の学習や生活経験を振り返り自分の考えをまとめる場が必要であると考えている。その一方法として，書く場面を位置づける。

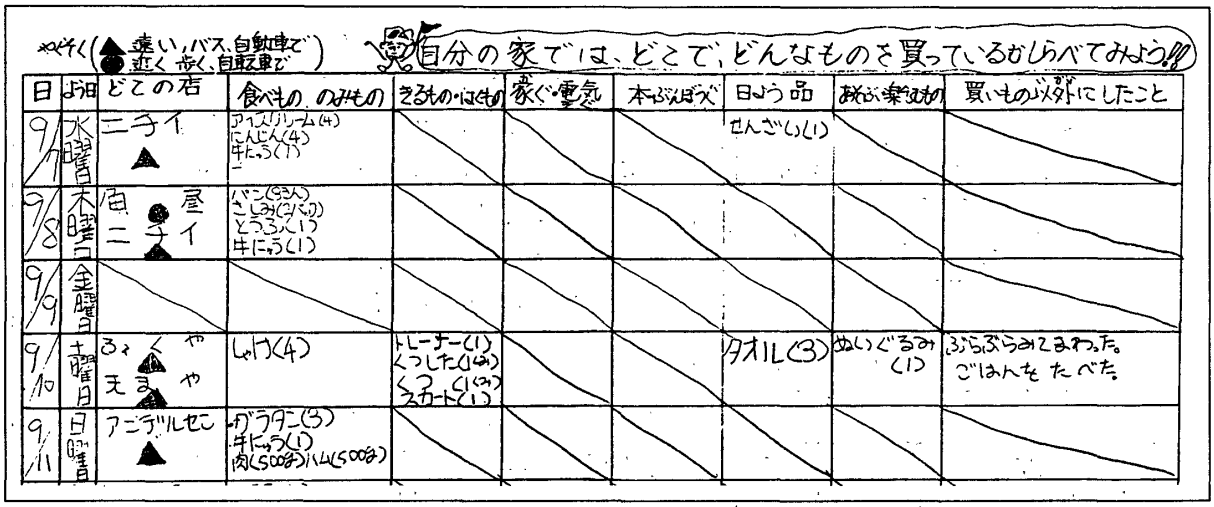
(3) 授業の実際

① 一人ひとりが買物調べをする場（第１時）

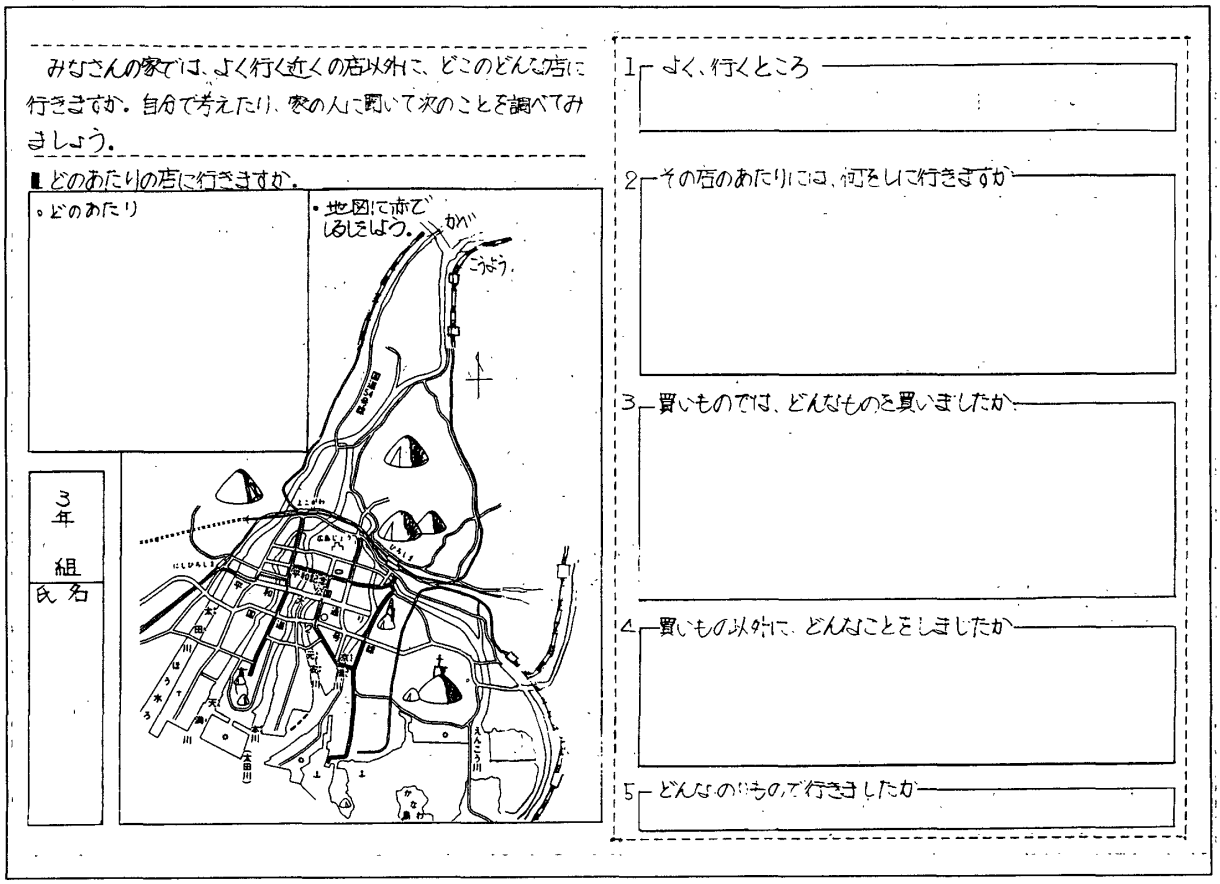
日頃，自分達はどんなものを買っているか，互いに発表しあい買物への関心を持たせたところで「みんなの家では，どこでどんなものを買っているか家の人に聞いたりして調べてみよう」と呼びかけて買物調べに入った。買物調べでは資料１のプリントを用意し，まとめるよう指示した。プリントの作成に当たっては，どこの店で，どんな品物を買っているかの傾向が一目で分かるような工夫をしてみた。一週間程度調べたところで傾向をかつむために買った品物ごとに色分けをしてみた。その結果，よく買物にいく店は近くの店で，食料品を主に買っていることがわかってきた。

一方，時おり利用する店があることもわかってきた。そこで，時おり行く店はどこか，どんな物を買うか，買物以外にどんなことをするか，さらに調べていくことにした。

資１　買い物しらべのプリント



資２　時おり利用する店についてのプリント



② 買物調べの結果を出し合い，本通り付近の商店を調査する視点（めあて）を作る場（第3時）

一人一人が自分の家の買物の傾向をつかんだところで，学級全体ではどの様な傾向になるか，よく利用する店はどこか，市の地図にシールで位置づけてみた。その結果，児童の住んでいるそれぞれの家の近くに分布することがわかってきた。分布の特色について，児童は毎日の生活に欠かせない食べ物や，日用品の買物は近くの方が便利だからという考えを持ち，納得したとらえをしていた。第3時は，それぞれが時おり利用する店はどこにあるのか，同じ地図に位置づける作業から始まる。

本時の目標　本通り商店街を自分や学級のみんなが利用しているわけを考えさせる。

準備　商店街の景観写真　シール　利用する商店の地図

指導過程

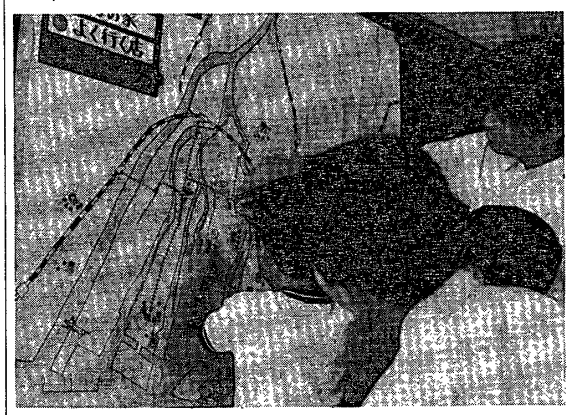
学　習　過　程	指　導　上　の　留　意　点
1 自分や学級のみんなが本通り商店街を利用していることを知る みんなの利用する商店 駅前　本通り　八丁堀 2 自分や学級のみんなが利用する本通り商店街での利用の様子を発表し合う 店の様子　買物の様子 家の近くと異なった商店 3 学級のみんなが本通り商店街を利用するわけを考える。 自分たちが利用するわけ ◦多種多様な商店　◦多くの商店 ◦工夫された施設 買うによし歩くに楽し本通り 4 本時のまとめをする	1　いろいろな地域の人々が利用する商店街があることに気づかせるために，買物調べの結果を以下のように活用する。 • 児童個々の利用する本通り商店街は，どこにあるか地図上に位置づける。 2　ここで，本通り商店街を取り上げるが地図などでは商店街の様子をとらえきれない児童がいると予想されるため，以下の点に留意する。 • 児童が利用した経験のある店や商店街の様子を紹介させる。 • 景観写真を提示し具体的な様子を示す。 3　「自分の家の近くに商店があるのにどうして本通り商店街に行くのですか」と発問して，利用しているわけを考えさせるが，その際以下の点に留意する。 • 自分が利用したときの経験をもとに考えるよう助言する。 • 家の近くの商店を利用する場合と比較して考えるように助言する。 • わけを発表する前に自分自身の考えを確かなものにするためにノートに記録させる。 4　発表後自分の考えをまとめる場を設け，変容や深まりを見る場とする。

観点別学習状況評価基準

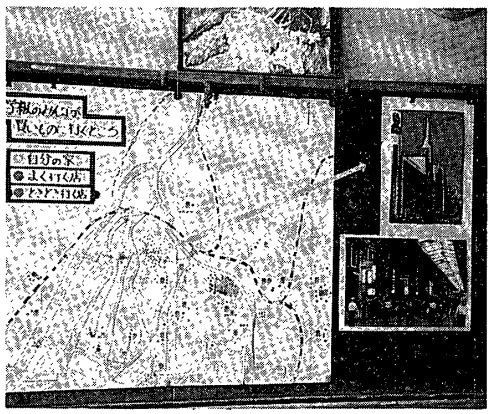
知識・理解	本通り商店街は，自分だけでなく学級のみんなが利用していることがわかる。
観察・資料	自分たちが時おり利用する商店は本通り商店街付近に集中していることがわかる。
思考・判断	本通り商店街を利用するわけを自分の生活経験をもとに考えることができる。
関心・態度	本通り商店街を調べることに関心を持つ。 本通り商店街を利用しているわけを，他地域に住んでいる児童の発言を聞きながら深めることができる。

授業の流れと反応

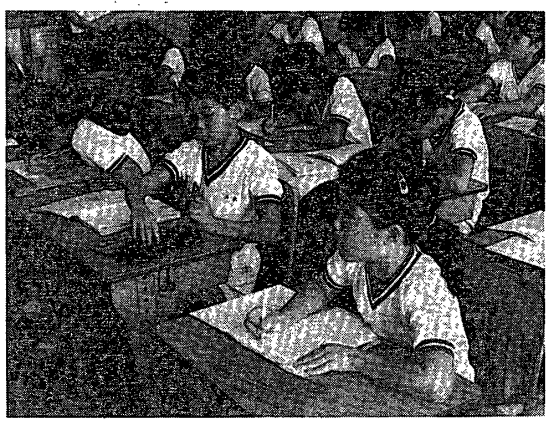
1 自分や学級のみんなが本通り商店街を利用していることを知る

分	教師の指導・発問・指示	児童の活動
00	みんなはよく行く自分の家の近くの店以外にときどき行く店があるって言ってたね。今日はそれがどの辺りにあるのか調べてみよう	• 前に出てもいいですか。 • だいたいこのあたり（地図をもとにして） • だいたいここらへん
01	どの辺りですか	• まん中　• 町の中心部　• 県庁のあたり
02	じゃあね，実際どの辺りになるかシールを貼ってみよう。シールの用意。ときどき行く店がどこにあるかシールを地図に貼ってみましょう	
05	どうなりましたか，みんな。	• すげーあそこらだけ　• 県庁のあたりが多い　• そごうとか大きい店がいっぱいある所へたくさん行く　• 本通りの辺り　• 広島駅　• 横川駅のあたり

2 自分や学級のみんなが利用する本通り商店での利用の様子を発表し合う

07	この辺りは本通りとか，そごうとか天満屋とかがあるんだけどね，ほかにこのあたりにはどんなお店があるか知っていますか。自分が行ったことがあるところを思い出せますか。 こんな店があるよって，宮本君が行ってくれたような言い方でもいいよ。	•広島は少ない　•瀬野川駅にもある　•そごう　•三越　•天満屋　•金座街　•本通り商店　•フジ　•カメラのタナカ（宮本君） •電話局やバスセンター •先生，小さい店でもいい？　•いきもの屋さん　•本屋　•制服のいとや 映画館（森元さん）　•スポーツ品　•そごうでもわかれている　•そごうのななめ前にダイイチ　•マクドナルド
10	いまみんなが言ったのはこんなお店なの。（景観写真を提示）この辺りのお店はこんな店があるわけ。	（写真に対しすごい反応）　•うん •ある！ある！ •ゲーム　•化粧品　•てんぷらうどん •おもちゃ　•ガラス品　•本　•食料品 •家庭用品　•レコード　•くつ下
11	じゃあ，この辺りにみんなどんな物を買いに言ったことあるの。 	三越の屋上のプールの券を買いに（田中） •ファミコン　•プレゼント　•帽子 •電気器具

3 学級のみんなが本通り商店街を利用するわけを考え，出し合う

15	みんなはこの福屋や天満屋や三越のデパートやこの本通りの辺りに，今言ったみたいなものを買いに行くんでしょう。でもねえ，みんなの家の近くには，店があるでしょう。……君にしても，あるんでしょう。なのにどうしてここに買いに行くん。今日はねえ，それを考えてみよう。ノートを開いて。（ノートを書き方を指示）自分の家の近くによく行く店があるのに，どうして本通りあたり買物に行くんかね。自分の考えを，じっくり書いてください。	（先生の対して多数の挙手） （多数の挙手） （先生の問いをよく聞いている）
17	（机間巡視　考えあぐねている子にヒント，相談にのる） 小山君が予想でもいいですかって言ったけど，予想でもいいよね	（よくノートに自分の考えを書いている） 
25	そろそろ……（え――）　まだ書きたい？　もうちょっとね。 （高崎君の質問に対して）すごくいい。近くの店と遠くの店を比べて書いていいよ。	• 先生，近くの店とと比べてもいいですか（高崎）
27	では，もうちょっとで。区切りのいいところで鉛筆をおいてください。	

29	まだ書きたいことはいっぱいあると思うけどね，一緒に発表してみましょう。皆さんの家の近くにはよく行く店があるのに，本通り辺りに買物に行くのはどうしてだと思いますか。自分の考えをいっぱいだしてみましょう。人の考えはよく聴きましょう。（全児童が手をあげるまで待つ。）	• 近くにいい店がない • 近くにはないものがかえる • いろいろなものが買える • 店がかたまってあり，数も多い所だから（森元） • 母さんと駅にいったついでに買いにいくから • 兄ちゃんの塾の迎えのついでに（山田） • いいものが　珍しいものがあるから
32	（平井さんの発言に対して）「都合のいいとき」ってどういうこと？	• 都合のいいとき悪いときがある（平井） • 母さんが町へ行くついではいいとき
34	（岡本さんの発言に対して）ケーキ屋さんが近い店にないところやあるところもある。岡本さんちの近くにはケーキ屋さんがないからなんだね。	• 家の近くにケーキ屋さんがないから（岡本） ええ！ケーキ屋さんは近くにあるよなあという反対の声 • 新鮮なものがある。
36	では，聞くんだけど，いいものがあるからってどういうことなの？近くの店は悪いものなのですか？	• 近くにはないもの • 近くの店にないものがある • 自分にあったもの • めずらしいもの
37	近くにないものっていったらどういうものがありますか。例えばどんなものがあるの	• ピアノの楽譜 • 服や絵や時計 • いろいろな本 • ころころ（赤ちゃんのつかうもの） • 家具 • プレゼント • ダイヤモンド

4 本通り商店街を利用するわけを，みんなの考えをもとにもう一度考えまとめる

40	自分の家の近くによくいく店があるのにどうして本通りの辺りで買物に行くのと聞いたら，みんながいろいろな考えを出してくれました。 今度は，みんなの発表を聞いたことをもとに，もう一度考えて，自分の考えや思うこと，あたらしく付け加えたいことを書いてください。	（先生の指示をよく聞いている） （すぐ書き始める児童） （友達に確認して書く児童） （考えて書く児童）

(4) 授業を終えて

観察・調査の視点（めあて）作りの学習場面において，「一人ひとりの見方や考え方を出し合うことかできたか」について，以下の２点から考察してみたい。

ア　買物調べの位置づけは，自分なりの見方や考え方を育むうえで有効であったか。

イ　お互いに考えを出し合うことによって，児童相互の考えはどのように変容したか。

アについて

買物調べを位置づけ，生活経験を掘り起こしていたことが児童一人ひとりの考えを育むうえで有効であったかについて，「本通り商店街をみんなが利用するのはどうしてか」についてのノート記述をもとに考えてみたい。

資３　生活経験と関わるノートの記述例

◦お母さんは，けしょう品をよくかいにいく。 ◦ときどきみんなで，ふくをまとめてかいにいく。 ◦お母さんにきいたのですが……。 ◦よくウインドウショピングにいこうとお母さんがいう。 ◦ぼくは，よく日ようにつれていってもらいます。 ◦バスや電車で，行くのでたのしい。 ◦バスの終点だからべんり……。 ◦店がたくさんならんでいるから。 ◦よくめだつように店がつくってある。 ◦友だちのプレゼントなどをかいにいく。	◦野球をみにいくときなどにいく。 ◦じゅくのかえりに兄さんがいく。 ◦妹の病院にくすりをとりにいくときに……。 ◦スポーツ品など近くにないので，よくかいにいく。 ◦ケーキなど予約しなくてもかうことができる。 ◦たとえば一万円するダイヤなどがうっている。 ◦近くにようふくなどいいものがないから。 ◦近くはコーヒーまめなどうっていないから。 ◦近くの本屋は立ちよみはおこられるけれど，町の方は，おこられないから。

資料４を見ると「たまに，お母さんが……」というようにお母さんとの会話やお母さんへの質問をもとにした自分なりの考えが記述されている。また，資料５を見ると，「僕はときどきお母さんと広島駅の方へ買物に行きます。……」とか，「本通りあたりは，時々バーゲンが開かれているから……」というように日常の生活経験や買物調べで得た情報をもとに自分なりの考えをまとめている。このような自分なりの考え方（自分自身の生活経験と家での買物の様子をもとにした考え）が，ほぼ全員のノート記述にみることができた。このことから，買物調べを位置づけ生活経験を掘り起こしたことは，児童一人ひとりに自分なりの考えを持たせるうえで効果的であったといえる。

また，「本通り商店町に買物に行くのはなぜか」の予想を出し合う場では児童が意欲的に発表を行っていた。このことは児童一人ひとりが，「自分は発表できる内容を持っている」という自覚を持っていたためではないかと思われる。一人ひとりに自分なりの考えを持たせていくことは，学習の意欲化を図るうえでも効果があるといえる。児童の予想を内容で分類すると資料11のようになり，多様な考えを引き出すことができたといえる。

資４

本通りあたりに買い物にいくのはどうしてか？。
。ぼくは、たまにお母さんが町にいこうというので、いやじゃとかいっていやがります。家の近くにいけばいいよと言うと洋ふくとかは家の近くにはうってないといいました。それに本をかったりする時近くになって、そこうとかはほとんどなかったことがないからです。でん気じをかう時も家の近くは、カセットテープとかをうっていないのでいくのだと思います。
。お母さんに一度どうしていくん？というと、かうものがなくてもふくのいいのがあるか見たりする。といっていました。

資５

本通りあたりにかい物に行くのはなぜか？

家の近くにスーパーマーケットやいろいろな店があるけどその中でガラスせいひんなどなどがなかったりするのでたりない物をかいに行くと思いました。

ぼくは時々お母さんといっしょに広島駅の方までいってついでにダイエーに行くからついでにということもあるのじゃないかと思いました。

ぼくの家は近くの店ではよく食べ物をかうけど商店がいのつんでは、ようふくやたべもの屋そんなにかわないのでどうしてかと思いました。

イについて

一人ひとりの考えを出し合うことによって，児童は自分の見方や考え方を，どのように変容させていったかについて，「考えを出し合う前のノート記述」と「発表後の記述」をもとに探ってみたい。

資料６を見ると自分一人で考えた記述は「服やはきものなど近くの店にないものがあるから」という内容であるが，発表後の記述をみると「○○君が言ったように……」と友達の発言に触発されて「高価なもの珍しいもの」といった商品の質に目を向け利用するわけを考えようとしている。

また，資料８をみると友達の考えに最初は反対していたものの，「よく考えてみるとなるほどと思った」というように共感したり，「○○は，思ったより多い」と自分の考えとのずれに驚き，新

本通り商店街を利用する自分なりのわけ

資6　出し合う前

本通りあたりに買い物に行くのはどうしてか。
①近くのスーパーは、ふくやくつやきる物はくものをうってないから遠くの本通りに行くんじゃないのかなと思います。
②近くの店と遠くの店とうっている物がちがうし近くの店はちいさいし1回しかないけど遠くの店は10回ぐらいあるし1回ごとにうっている物がちがう。

資7　出し合ったあと

①おとうさんのしごとのかんけいでいつもかえりにそごうとかにるってめずらしい物をみにいって近くのみせにないものをかってかざっています。
②田中君がいったように近くのみせには、ダイヤモンドとかうってないから遠くのみせにいくんだと思います。
③店の人にききたいこと
どうして、近くの店はどうしてダイヤモンドとかめずらしい物はうっていないんですか。
ぼくのかんがえ
店が大きくなるほど売る物がめずらしくなるものがうっている。

資9　出し合ったあと

思ったこと

私は、森元さんや田中君の言った意見にさんせいの考えと反対の考えがあります。なぜ、反対する考えとさんせいする考えがあるかというと…　遠くにあるそごうやふくやに行くのは、ついでに行くわけではなく、近所にあるお店にないものを売っているから、遠くの人でもくるんだと思います。でもそごうやふく屋の近くにすんでいたり、バスセンターに行ったので　ついでに…と言う人もいるかもしれません。それで　さんせいの意見と反対の意見があるのです。

資8　出し合ったあと

◦本通りあたりに買い物に行くのはどうしてか

◦いい物が、売っている。
◦近くで売ってない物がある
・たくさんの、店がある
(ほうせきなど)
◦大きいというのは、大きいからいいのじゃないからちがうと思う。
◦「ついでに行く」というのは、ちがうと思ったけど、よく考えるとそれはそうだと思いました。
◦やっぱり思ったように　近の店にないもの本通りにあるというのはみんなと同じだった。
◦「ついでに行く」どいうのは私の思っていたより書いている人は、多かった
◦たくさん店があるというのは、どうしてかなと思う。
◦いろいろなものがあるというのはそれはそうだと思います。

資10　出し合ったあと

思うこと　考え
わたしはみんなのいけんを聞いていると全部そうだと思います。でもぎもんがあります。めずらしい物がある。と言った人がいるけど、そんなにめずらしい物はわたしはないと思うので、ちょっといみがわからないような感じがします。

たなわけを加えている。資料9，10では友だちの発表に反対や賛成をしながら「どうもよく分からない」と疑問をさらに深めている。全員のノート記述の変容を類型化してみると資料12のようになり児童それぞれに，いろいろな深まり方が見られた。このことから，児童一人ひとりが自分の考えを出し合うことは，一人ひとりの見方や考え方を広げ，深めるうえできわめて重要であるといえる。

しかし，発表が単なるの羅列に終わってはならない。発表をつなぎ，相互に深めあっていくことが望まれる。本実践はその点において課題が残された。今後は，児童の考えを引出し，さらに関わりを持たせながら深める発問や児童の反応の取り上げ方を吟味することが課題である。

資11　どうして本通りあたりに買物に行くのか　自分で考えたわけ

A商品に目を向けたもの	
• **近くにないもの**がある	中川　瀬口　丸山　宮本　小山　胤森　城市　寺谷　洪　横田　宮井　寺手に　久保西　細木
• **種類・品数が多い**	橋原　浜本　天野　森元　岡本　丸山　横田　城市　久保西　松村　原　河野　重岡　海老沢　上野　大黒　平井　瀬口　高崎　中西　松田　胤森
• **高級品・珍しいもの**	山口　原　松田　田中　山本
B店に目を向けたもの	
• **店が多い**	海老澤　山田　松村　小川
• **店が集まっている**ので（かたまって並んでいる店）	中西　松村　松田　原　河辺
C**買物の楽しさ**に目を向けたもの	
• 見たりすることの楽しさ　見たりしても怒られない	浜本　中川　平井　原
D**立地条件のよさ**に目を向けたもの	
• 何かのついで（食事，仕事）	高崎　山田　丸山　上野　宮井　久保西　平井　原　河部　田中　海老澤

資12　互いの発表後の深まり方

A自分の考えに**自信**を深めている。**共感**している。	中西　寺谷　高崎　細木　重岡　胤森　小川　天野　石田　松村　田中　宮本　海老澤　中川
B • 新しいわけに**気づき要素を増やし**している。	山口　小山　城市　橋原　山田　横田　岡本　横田　平井　松村　重信　山本　浜本　原　久保西　海老沢
• 新しいわけに気づき**自分の経験と結び付けて**いる。	瀬口　橋原　河部　浜本　細木　松田　河野
C他の児童と自分の経験との違いに気づき，**共感したり疑問**を持ったりしている。	重岡　丸山　大黒
D**新たな疑問**や，知ろうという**意欲**が生まれてきている。	森元　高崎　瀬口　寺谷　山本　小山　海老澤

3．研究の成果と今後の課題

以上，3年単元「商店街と人々のくらし」の実践事例をもとに，社会的事象に対する児童一人ひとりの見方や考え方が生きる授業創りの試みを述べてきた。

ここでは，実践事例での試みを他学年での指導に適用する場合に配慮した事項を中心に，研究の成果と今後の課題を，次の三点からまとめていきたい。

(1) 児童一人ひとりに見方や考え方を持たせる社会的事象との出合わせ方の工夫（教　　材）
(2) 児童一人ひとりの見方や考え方が生きる個別での学習の工夫（学習過程）
(3) 児童一人ひとりの見方や考え方を診断し，その変容を評価する方法の工夫（評　　価）

(1) 児童一人ひとりに見方や考え方を持たせる社会的事象との出合わせ方の工夫

実践事例では，「商店街のはたらき」という社会的事象と児童とを出合わせる際に，『買物をした商店と品物を一週間程度自ら調べる活動』を設定している。児童一人ひとりの「商店街のはたらき」に対する見方や考え方は，個々の生活経験に裏付けられていることが多いだけに，生活経験を掘り起こす買物調べの活動は自分なりの見方や考え方をしっかりと持たせる格好の契機になる。児童たちが自信を持って活発に発表し，発表に聞き入っていた要因のひとつと言えよう。

この『単元で扱う社会的事象に関わる児童の生活経験を掘り起こす』工夫は，他学年の指導でも比較的容易に適用できるものである。例えば4年の「地域社会における水道のはたらき」では『自分の家庭で使う水の量調べ』を設定することで「多くの水を何気なく使っているものだな」との気づきをもとに｛とすれば市全体では？｝とか｛何に使っているのか｝｛こんなにたくさんの水をどうしているのか｝など多様な見方や考え方を児童に持たせることができる。4年「地域社会におけるごみ処理のはたらき」での『自分の家庭から出るごみ量調べ』や5年「農業の盛んな地域での生産」での『食べ物の産地調べ』なども同様である。学習への意欲化やめあて把握を図るためとの視点に加え，今後は，児童一人ひとりに自分なりの見方や考え方を持たせていくためとの視点から，『児童の生活経験を掘り起こす』工夫を見直していくことが必要である。

(2) 児童一人ひとりの見方や考え方が生きる個別での学習の工夫

実践事例では，集団の中に自分の考えを出す前に自分の考えを整理して書く『個別での学習』の場を十分に設定している。また，買物調べ結果をシール貼りを通してまとめていく過程では，刻々出来上がる地図を見ながら｛どうなるのかな｝｛ぼくわたしの考えと同じかな｝という『個別での学習』が自然になされている。それだけに，児童たちは自信を持って活発に発表し，発表に聞き入っていたと言えよう。

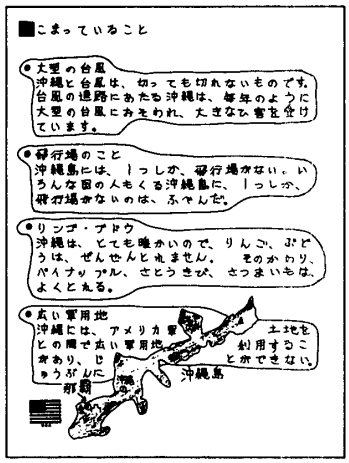
この『個別での学習を取り入れる』工夫は，小学校6年間の見通しをふまえて適用することが大切である。3年における個別での学習が卒業間近な6年における個別での学習そのものではなかろうし，6年の個別での学習をそのまま3年へ取り入れることには当然無理があるからである。各学年段階の児童の特性に応じた指導の重点（36ページ掲載の図表）の中から個別での学習に関わるものを抽出し，児童の特性に応じた個別での学習のあり方を次のように捉えてみた。

◇児童の特性に応じた個別での学習のあり方（案）◇

学　年	学習の場における児童の特性	個別での学習のあり方
1・2年	興味・関心は持続，しかし拡散的	児童個々の具体的な体験の設定
3・4年	予想可能，論理性，集中的追求の芽生え	児童個々の探索的な活動の設定
5・6年	持続的に深く追求できる	児童個々の個人研究学習の設定

◦探索的活動を取り入れた4年「沖縄島の人々のくらし」の展開例

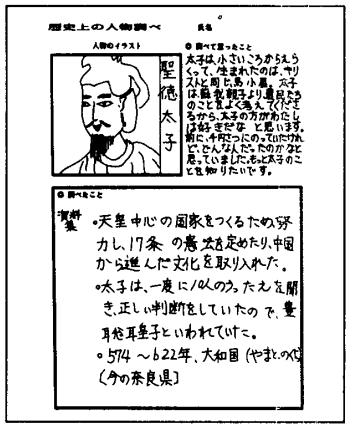
第一次(2)		第二次(3)	第三次(4)
気候の違いを手がかりに沖縄島のくらしと広島とのちがいを予想する。	全員の想を確認予	資料をもとに自分のめあてを個々が調べ予想に対する考えをもつ。	家のつくり・作物問題の三点から沖縄島のくらしの工夫を考え合う。
全体学習		個別での学習	全体学習
めあて意識の喚起	追求の方途	個人でのめあて追求	全体での追求・解決



めあてが高まった段階で，児童一人ひとりに自分が取り組みたい事柄から個々で自分なりに調べてみる時間を設定する。時間内でめあての解決をねらうのではなく，めあてに対する自分なりの考えを深めさせておくことをねらう。全体学習に向けて個々が探索的に調べる活動を設定し，より確かな学習創りを図ったものである。

◦個人研究学習を取り入れた6年「聖徳太子」の展開例

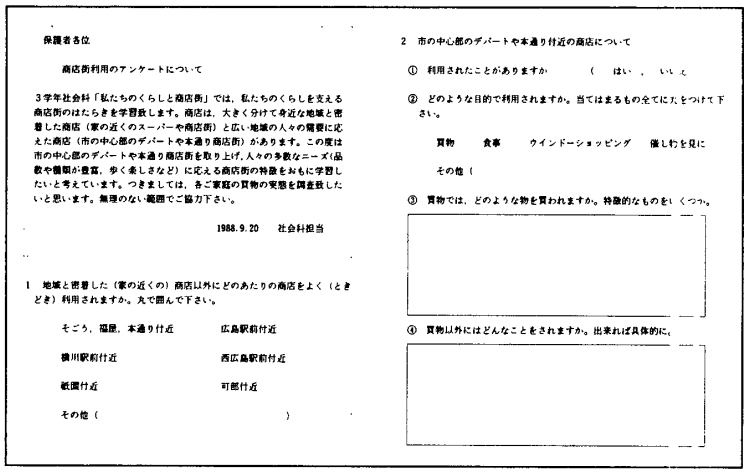
第一次(1)	第二次(2)		第三次(2)
聖徳太子の年表を作り太子の願いが施策で果たされたかめあてを持つ。	個々で太子の施策を調べ願いが果たされたどうか自分の考えを持つ。	遣隋使 冠位12等階	飛鳥時代の人々のくらしをもとに太子の願いが果たされたか話し合う。
全体学習	個別での学習		全体学習
めあて意識の喚起	追求の方途	個人での追求・解決	全体での深め合い



資料で調べることを好み自分でのめあて解決に意義を見いだす高学年では，めあてを確認した段階で，児童一人ひとりが調べ解決していく時間を設定する。全体学習では，各自が調べ考えた事柄を集団の中に出しながら，単元の中心内容について学習をすすめる。個人研究学習を通し，自ら学ぶ学習方法の習得を図ったものである。

(3) 児童一人ひとりの見方や考え方を診断し，その変容を評価する方法の工夫

実践事例では，指導過程の中に自分の考えをノートに書き表す場を2回設定し，記述内容とその変容をもとに診断と評価を試みた。合わせて15分近い時間をかけたわけであるが，一人ひとりの見方や考え方を確かに持たせたり，机間巡視でその特徴を診断し指導に生かしたりすることができ，効果的であったと考えられる。


保護者各位

商店街利用のアンケートについて

3学年社会科「私たちのくらしと商店街」では，私たちのくらしを支える商店街のはたらきを学習致します。商店は，大きく分けて身近な地域と密着した商店（家の近くのスーパーや商店街）と広い地域の人々の需要に応えた商店（市の中心部のデパートや本通り商店街）があります。この度は市の中心部のデパートや本通り商店街を取り上げ，人々の多数なニーズ（品数や機順が豊富，歩く楽しさなど）に応える商店街の特徴をおもに学習したいと考えています。つきましては，各ご家庭の買物の実態を調査致したいと思います。無理のない範囲でご協力下さい。

1988.9.20　社会科担当

1　地域と密着した（家の近くの）商店以外にどのあたりの商店をよく（ときどき）利用されますか。丸で囲んで下さい。

そごう，福屋，本通り付近　　広島駅前付近

横川駅前付近　　西広島駅前付近

紙園付近　　可部付近

その他（　　）

2　市の中心部のデパートや本通り付近の商店について

①　利用されたことがありますか　　（　はい　，　いいえ

②　どのような目的で利用されますか。当てはまるもの全てに丸をつけて下さい。

買物　　食事　　ウインドーショッピング　　催しものを見に

その他（

③　買物では，どのような物を買われますか。特徴的なものを（　）つつ。

④　買物以外にはどんなことをされますか。出来れば具体的に。

なお，本実践では，右に示すような事前の実態調査と指導内容の紹介を保護者向けに実施した。商店街の利用についての個々の生活経験は，家庭での生活経験と大きく重なり合っている。児童の実態を完全に把握しきることは容易ではないが，保護者向けの調査を通して児童の実態診断の万全を期してみたわけである。

この『見方や考え方を診断し変容を評価する』工夫のうち診断法については，他学年での指導に比較的容易に適用できる。単元学習に入る前に，児童一人ひとりの見方や考え方ののもとになる生活経験や既有知識を把握し，単元展開や指導に生かす努力を今後とも継続していく必要がある。一方，授業中に一人ひとりの見方や考え方を的確に把握したり，その変容を評価したりする方法については，時間設定や表現方法の面で課題が残った。一人ひとりの見方や考え方という思考や情意面に関わる内容だけに，よりよい評価法の開発と評価結果の集積・活用に今後とも努めていきたい。